

2015年10月7日

東京電機大学
三井住友海上火災保険株式会社

～ 全国初！ ロボット等の開発・実用化で大学と損害保険会社が連携 ～
東京電機大学・三井住友海上の産学連携協定締結について

東京電機大学（学長：古田 勝久）と三井住友海上火災保険株式会社（社長：柄澤 康喜）は、10月15日に、「ロボット開発等の教育・研究事業の育成・振興に向けた産学連携に関する業務協定」を締結します。

現在、少子高齢化時代における社会課題の解決や新しい成長産業創出の切り札として、医療・介護や農林、交通など、さまざまな分野でロボットの開発・実用化が強く期待されていますが、その過程においては、適切なリスクマネジメント対策が不可欠です。

東京電機大学は、地域の中小企業・自治体・他大学等と連携し、作業支援ロボットや医療機器、福祉機器の開発等に関する研究を進めていますが、ロボット分野での豊富なリスクマネジメント実績を有する三井住友海上と産学連携協定を締結することにより、ロボット関連事業の健全かつ安全な育成・振興を推進します。

東京電機大学と三井住友海上は、今後も、先進技術の開発・実用化に貢献していきます。

1. 産学連携協定について

(1) 協定の概要

- ロボット・医療機器等の研究事業におけるリスクマネジメント
- 学生および教職員の事故対策・危機管理態勢構築の支援
- 産官学連携事業パートナーの紹介・マッチング等の支援
- セミナー・研修会などの開催 など

(2) 調印式の概要

日時：2015年10月15日（木）11時00分～11時30分
 場所：三井住友海上駿河台本館ビル 24階特別応接会議室
 出席者：東京電機大学 学長 古田 勝久
 三井住友海上 専務執行役員 佐々木 静



<医療・介護ロボットの例>

2. 協定の背景と目的

少子高齢化時代における人手不足の解消や生産性の向上等の「社会課題の解決」と「新しい成長産業創出」の切り札として、医療・介護や農林、交通、インフラ・災害など、生活に密着した分野でのロボット等の開発、実用化が強く期待されています。

東京電機大学では、作業支援ロボットや医療機器、福祉機器等に関する研究を進めていますが、これらのロボット等の開発・実証試験段階において安全を確保し、実用化を図るためには、適切なリスクマネジメント対策を講じることが不可欠です。

三井住友海上は、医療機関向けの介護ロボット保険を含む「医療機関総合補償プラン」を販売しているほか、「さがみ産業ロボット特区」や「つくばロボット特区」で実証試験中の賠償リスクに備える専用の保険を取扱うなど、ロボット分野での豊富なリスクマネジメント実績を有していることから、今回の協定締結に至りました。

今後は、両者の連携をさらに強化し、セミナー・研修会の共催や、新たなロボット等の開発・実用化をはじめ、さまざまな取り組みを展開していく予定です。

以上